

★ 操 作 方 法 ★

ページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

僕とロシアの物語・そのII



『僕とロシアの物語・そのII』

林 保明

・モスクワ到着

ロシアに来て一週間。モスクワへの旅は、レニングラード駅の煙草の臭いで始まった。サンクト・ペテルブルグ発の高速列車を降りた途端に、きなくさい臭いが鼻を突く。目の前の駅舎から白煙が流れ出ていた。車内は禁煙でも駅では自由に吸えるのだろうか？

とりあえず、予約したホテルに向かうのだが、それには地下鉄を2本乗り継がなければならない。

荷物を背に街に出る。広々としていながら、他のヨーロッパとは違って、どこことなく雑然とした町。抜けるような青空とラッシュ時の排気ガス、頭上にはトロリーバス（※1）の架線が張り巡らされている。旧東欧地区では良く見る風景だけれど、日本の都市ではもう見られない。

地下鉄の駅はすぐに分かった。だが入口らしき扉は閉まったままだ。押しても引いても駄目なので周りを見回すと、ガードマンが地下に続くスロープを指差していた。

切符売り場で10回券のICカードを買い、行く先案内を頼りに人ごみの中をホームに向かった。幸いロシア語は2年ほど勉強したので、駅の名前くらいは読めるのだ。









・モスクワ大学へ

街に出て3日目、今度は少し郊外へ行って見ようと遠出を試みた。地下鉄1号線でモスクワ大学に行き、モスクワ川沿いに1時間ほど歩きトロリーバスを乗り継げば、中心地まで戻れる。地下鉄は充分乗りこなしているが、モスクワのトロリーバスにはまだ乗っていない。

前日の雨がまだ残っているような、どんよりとした曇り空の下、iPhoneのGPS地図を頼りに駅から歩き始めた。ガイドブックに『モスクワ大学は、スターリン様式の巨大な建築で、遠くからも良く見えるが歩くと遠い。』と書いてあったが、なるほど塀に沿って歩いてもなかなか入口に着かない。

集合住宅であろうか、巨大な建物を横目に、工事中の歩道や水溜りを避けながら歩く。でもこの雑然とした街並みが、僕には何とも言えず心地よい。歩くこと十数分、やがてモスクワ大学の入口が見えてきた。

門から中に入る。こちらはどうぞやら裏門のようだ。正面にスターリン・クラシック様式の巨大な建物が聳え立っている。夏休みのためか人通りは少ない。銅像の下で学生が本を読んでいた。

ひとしきり写真を撮って、元来た道を引き返した。地図を見ると大学の反対側をモスクワ川が流れ、それに沿って少し歩くと大きな幹線道路に出て、トロリーバスに乗れば赤の広場まで行けるはずだ。(実は、トロリーバスに乗るのも今回の旅の目的だった!)

本来ならモスクワ大学の中を通過して、モスクワ河畔に出るつもりだったが、大学に着いた途端に気が変わった。「広過ぎる。地下鉄で行こう!」、地下鉄の駅は円形で改札口の周りに数件の店舗が並んでいる。その中のカフェで昼食を取り、ひと駅だけ地下鉄に乗った。次の駅は川の上にあった。

写真リスト1

1. 街角・トロリーバスから (Moscow ,6 Sep,2011)
2. 特急はやぶさ・レニングラード駅 (Moscow ,2 Sep,2011)
3. 街角・カザン駅付近 (Moscow ,2 Sep,2011)
4. 街角・モスクワ大学付近 (Moscow ,5 Sep,2011)
5. 街角・モスクワ大学付近 (Moscow ,5 Sep,2011)
6. 街角・モスクワ大学付近 (Moscow ,5 Sep,2011)
7. モスクワ大学 (Moscow ,5 Sep,2011)
8. モスクワ大学 (Moscow ,5 Sep,2011)
9. モスクワ大学 (Moscow ,5 Sep,2011)
10. モスクワ河畔 (Moscow ,5 Sep,2011)
11. モスクワ川に架かる駅と道路 (Moscow ,5 Sep,2011)
12. ガガーリン広場・ガガーリン像 (Moscow ,5 Sep,2011)
13. ロシア科学アカデミー本部ビル (Moscow ,5 Sep,2011)
14. ガガーリン広場・鉄塔モニュメント? (Moscow ,5 Sep,2011)

トロリーバス (※1)

道路上に張られた架線から取った電気を動力として走るバス。外観も操縦法もバスに近いが、日本の法令上は無軌条電車(むきじょうでんしゃ)とされ鉄道として扱われている。





・ガガーリン広場

川沿いの遊歩道を歩く。二階建てになった遠くの橋の上をトロリーバスが走って行くのが見えた。真昼間なのに吟遊詩人オクジャワ（※2）の「真夜中のトロリーバス」と言う歌を思い出した。

子供の頃、生まれ故郷の横浜でもトロリーバスは走っていたのだけれど、乗った記憶がない。もしかしたら生まれて初めての乗り物なのかもしれない。

ゆったりとした川の流れに沿って進むと、やがて右側に大きな建物が見えてきた。屋上に金色の装飾が付いている。ロシア科学アカデミー本部ビルだ。別名「黄金の脳みそ」と言うらしい。

その先には天に向かって立つ銀色の「ガガーリン像」、このあたりはガガーリン広場と呼ばれているが、ベンチがある訳でもなく、車がひっきりなしに走っている。像の近くまで行きたいのだけれど行き方が分からない。芝生の上にガガーリン地域と書かれた看板が置かれ、その脇には変わった形の鉄塔が立っていた。しばらく辺りの写真を撮った。

中心地へ向かうにもこの道路を渡り、向こう側のバス停に行かなければならない。レーニン大通りと言うとてつもなく広い通りの向こう側だ。ソ連時代にはヴヌコヴォ空港に降り立った外国の要人を、クレムリンまで送り届ける役割を果たしていたそうだ。建物の高さが統一された美しい通りだ。でも問題は・・・、「どうやったら向こうへ行けるのだろうか?」、周りをキョロキョロ見渡していると、地下道の入口らしきものが見えた。

オクジャワ（※2）1924～1997年

ソ連・ロシアの詩人、歌手（シンガーソングライター）、小説家。







・愛しのトロリーバス

街を自由に動き回るには、地下鉄やバスを利用することが必須条件であり、かつその方が効率は良い。だがどのガイドブックを見てもロシアに関する情報はネガティブなものが多い。特に地下鉄は危険だと書いてあった。事実、僕の知り合いもサンクト・ペテルブルグで数人の集団に取り囲まれて、財布を奪われた。

でもサンクト・ペテルブルグの若き友人エリーナは「それは10年前の話、今は監視カメラも付いているから安全です!」と言う。(車内のインターホンでおばあさんが話しているのも見た。)

その言葉を信じ、僕は一人旅の初日から地下鉄を乗り回したのだけれど、トロリーバスに乗るのは始めてである。

停留所で待つと、ワゴン車のような小型のバスが止まった。ロシア女性が大柄なせいか、車体がやけに小さく見えた。なかなか目的のバスは来ない。待つこと10分、サンクト・ペテルブルグのトロリーバスは車掌が乗ってチケットを売っていたのだけれど、モスクワはカード式になっている。

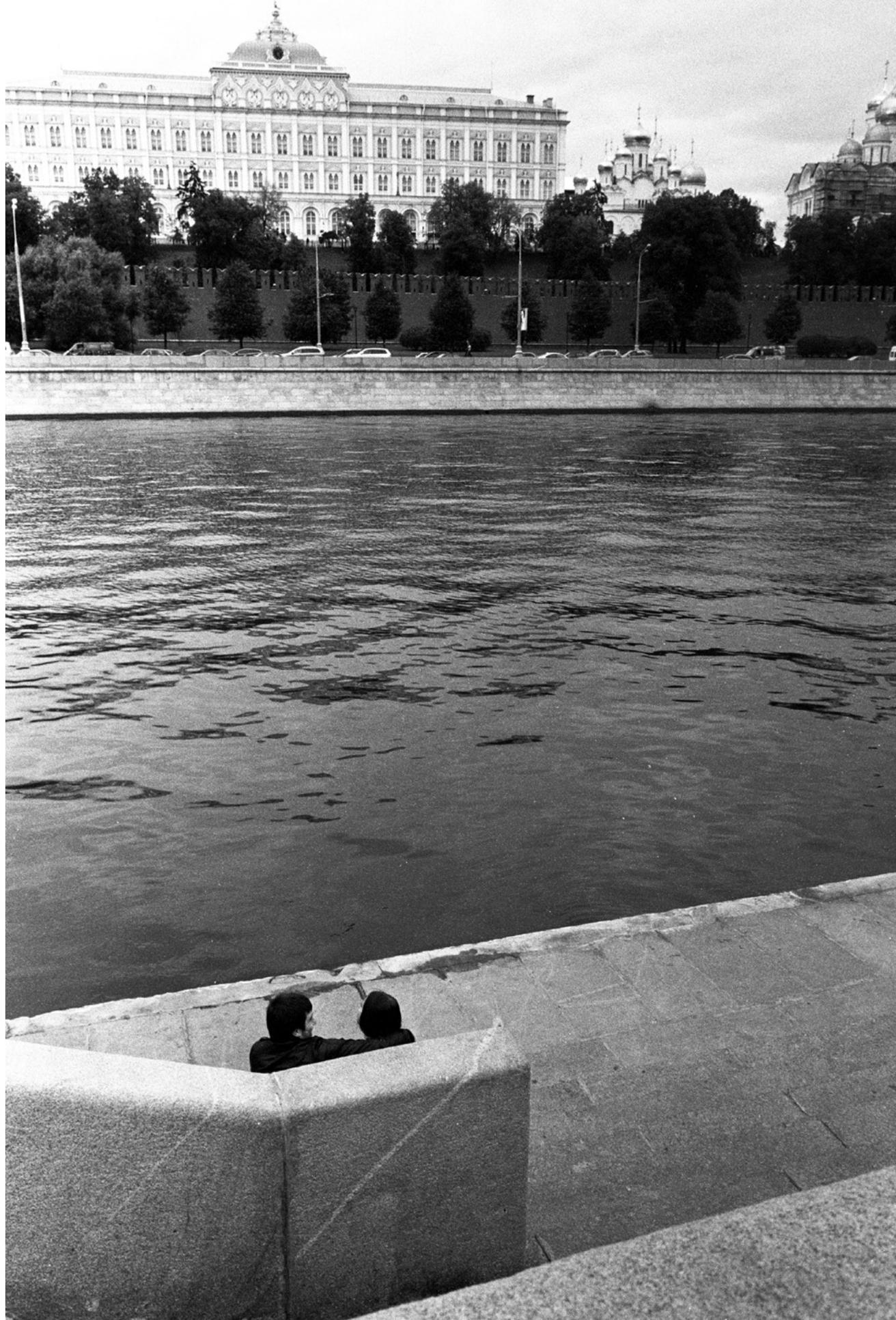
「あれ?、どっちが表側かな・・・?」、差し込むところが45度くらい斜めに傾いている。どきどきしながら、カードを入れようとすると、子供がゲートを潜り抜けて緑のランプが付いた。「お母さんが子供の分を払ったのだろうか・・・?」、よく分からないまま僕はカードを差し込まずに薩摩の守(タダ乗り※3)を決め込んだ。

薩摩の守(※3)

「平家物語」に出てくる薩摩守平忠度(たいらのただのり)を只乗り(タダ乗り)に掛け、無銭乗車(無賃乗車)、不正乗車という意味で使われる。









期待していただけあって、静かで快適な乗り心地だ。街に行く人の様子が手に取るように分かる。

中心地に近づくとバスは左にカーブしてモスクワ川の中洲に入った。ソ連時代のエリートが住んでいた河岸通りのマンション前でトロリーバスを降り、また川沿いの道を歩く…。夕暮れが近い。夏とは言え肌寒くなって来た。河岸を覗き込むとカップルがキスをしていた。クレムリンは目の前だ。

やがて河岸の歩道はクレムリンを通り過ぎ、赤の広場へ繋がる橋に出会う。街角にはコスモスが咲いている。モスクワの短い夏は終わり、あたりはもう秋が深まっていた。



写真リスト2

15. ガガーリン広場・地下道の出口 (Moscow ,5 Sep,2011)
16. ガガーリン広場・小型バス (Moscow ,5 Sep,2011)
17. トロリーバスの車内 (Moscow ,5 Sep,2011)
18. バス停・河岸通りのマンション前 (Moscow ,5 Sep,2011)
19. トロリーバスから降りる人 (Moscow ,6 Sep,2011)
20. モスクワ河畔 (Moscow ,5 Sep,2011)
21. モスクワ河畔・対岸はクレムリン (Moscow ,5 Sep,2011)
22. モスクワ河畔・ポリショイ・モスクヴァレツキー橋 (Moscow ,5 Sep,2011)
23. 赤の広場・ポクロフスキー聖堂 (Moscow ,5 Sep,2011)